

ふるさと講座・歴史系

歴史の道を歩くシリーズ1

江戸時代のハツケ！

～野付通行屋・番屋跡遺跡を訪ねる～

道内でも珍しい江戸時代の遺跡を訪ねたいと思います。また、野付半島の春の息吹も感じられることと思います。

- 日 時 平成24年4月21日（土）
午前9時30分～午後1時
- 場 所 野付半島
（集合-野付半島ネイチャーセンター2階）
- 講 師 別海町郷土資料館 石渡 一人
- 定 員 20名
（電話・FAX・メールにて氏名・電話番号を4月10日（金）までにご連絡ください。）
- その他 長靴を必ず着用下さい。草分け道や海岸を5kmほど歩きます。



1999年頃の野付通行屋跡遺跡



野付通行屋跡遺跡の墓石

郷土学習出前講座をご活用ください！

当館スタッフが学校（学級レクも可能）や地域の各団体へ出向いて講座を実施します。現在、下記メニューにより、別海町の歴史や自然をわかりやすくお話しします。家族ぐるみや少人数の場合は（10人程度）、郷土資料館でも実施できますので、詳しくはお電話で問合せください。

1. 昔々のべつかい

先史時代の様子のお話や、各種体験活動を通して別海の古代を紹介します。

①お話し ②体験活動「土器作り」「勾玉作り」「火おこし」など ③遺跡見学

2. 幻の町キラクを探るー野付通行屋跡遺跡の発掘調査から

江戸時代の野付半島の様子を野付通行屋跡遺跡の発掘調査の成果を交え紹介します。

3. 加賀家文書とは？

加賀家文書に関する江戸時代末の別海町の様子を紹介します。

4. べつかい缶詰物語

開拓使により設置された別海缶詰工場に関する歴史を紹介します。

5. 西別川の献上鮭について

寛政12年（1800）から行われた西別川の献上鮭の製造について紹介する。

6. 昆虫採集・標本作り

町内に生息する蝶やトンボを採集し、同定、標本作りを指導します。

7. 化石にふれよう

野付半島沖で発見されたマンモスゾウ臼歯化石のお話と化石のレプリカ作りを指導します。

8. 巣箱づくり

巣箱作りを通して、野鳥に対する理解を深めます。

近世の別海を探る 「西別川河口から北」～その6～

クムシ

文献資料の標記は「コムシ川」「クムシ川」「クムシ」「クミシ」「コム ニ ウシ」があります。現在の尾岱沼の九虫川をさします。

○地名の由来

〔コム ニ ウシ〕

・「櫛多キ處、今ハ櫛ナシ、酒屋ノ處ハ即チ此地ナリ」

『北海道蝦夷語地名解』永田方生 明治24年(1891)

○地勢と建物など

幕府直轄時代 寛政11年(1799)～文政3年(1820)

・「川名」

『大日本沿海地図蝦夷地名表』伊能忠敬 寛政12年(1800)

・「川名」

『東蝦夷地各場所様子大概書』松前藩 文化5年(1808)

・「子モ口夷人住居地名」・「川」

『東行漫筆』荒井保恵 文化6年(1809)

松前藩復領時代 文政4年(1821)～安政元年(1854)

・「小川有るなり。」

『初航蝦夷日誌』松浦武四郎 弘化2年(1845)

・「此所に川有。幅貳間程、深サ三尺程。」

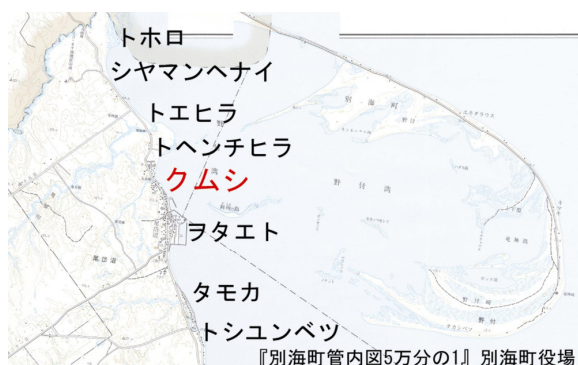
『古人の邑嚙 嘉永七甲寅年閏七月〔子モ口場所〕』加賀伝蔵 嘉永7年(1854)

幕府再直轄時代 安政2年(1855)～慶応3年(1867)

・「クムシ(小川)、是より崩岸まゝ添行、」

『東西蝦夷山川地理取調紀行 東蝦夷日誌』松浦武四郎 安政3年(1856)

・「川 但巾二間程 深三尺程 是より湖之内」『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政5年(1857)



別海町郷土資料館だより No.153

発行日 平成24年4月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

例年より雪が多く残り、4月という実感が中々わきませんが、先日のふるさと講座自然系の観察会(風蓮湖)ではタンチョウが飛来していて、やはり春だなあと感じました。また、本別海～走古丹の間は、エゾシカが異常に多く集まっていたびっくりしました。ものすごい数です。上の写真(K.I)